

第15回(令和6年度)助成研究成果表彰 表彰式・受賞記念講演会

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度は11名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、6月3日開催の第60回通常理事会において、3名の方の受賞が決定いたしました。

9月11日に鉄鋼会館において表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。当日は田中理事長の挨拶、近藤技術委員の講評の後、理事長よりステンレス製の表彰状と副賞が授与され、引き続き受賞者による記念講演が行われました。

【各賞の受賞者】

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	野呂真一郎	所属	北海道大学大学院地球環境科学研究院・教授
助成研究期間	3年間：平成30年11月～令和3年10月		
研究テーマ	柔らかい多孔性物質による高効率二酸化炭素分離材料の創製		
研究成果	氏は、二酸化炭素の分離脱離回収を常温で達成するために、構造相転移と吸着が同期したアミノ基修飾多孔性金属錯体を用いた新規分離材料を開発した。この研究成果は、低エネルギー（低コスト）での二酸化炭素分離に寄与する社会的意義の大きい研究成果である。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	菊池 将一	所属	静岡大学工学部機械工学科・准教授
助成研究期間	1年間：令和2年11月～令和3年10月		
研究テーマ	環境負荷低減のための液中高温高压気泡加工による多機能鋼の創製		
研究成果	氏は、液中の高温高压気泡を用いる機能性キャビテーション技術による丸棒鋼表面への圧縮残留応力付与が、鋼の疲労強度増加に寄与することを見出した。この研究成果は、鋼の高強度化と耐食性改善を同時に達成することができ、二酸化炭素排出削減に貢献する実用性の高い研究成果である。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	鈴木 賢紀	所属	大阪大学大学院工学研究科・准教授
助成研究期間	2年間：令和2年11月～令和4年10月		
研究テーマ	水熱環境での還元反応による製鋼スラグからの鉄とリンの分離回収		
研究成果	氏は、水熱反応を利用し製鋼スラグから鉄やリンを熱水中へ溶出させた後、酸化還元または水和物生成反応を利用して固相析出させる回収手法を見出した。この研究成果は、将来の実用的な資源回収に結びつく可能性のある、経済的にも意義の大きい研究成果である。		

【 表彰式の様子 】



主催者代表挨拶 田中理事長



技術委員 講評 近藤委員



野呂先生



菊池先生



鈴木先生

(記念撮影)



左から、田中理事長、鈴木先生、野呂先生、菊池先生、 近藤委員

【記念講演会の様子】



(理事長賞)
野呂先生



(技術委員長賞)
菊池先生



(鉄鋼技術賞)
鈴木先生

